

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成26年度分）

団体名： 笠置町

プロジェクト名	魅力ある観光のまちづくり事業	実施期間	H26年度～H28年度	テーマ	観光のまちづくり	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	笠置町は、京都と奈良の間、木津川上流の山峡に歴史とロマンを漂わせる静かな史跡・名勝の町です。少子高齢化の進む当町にとって、自然と緑あふれる魅力をより多くの方々に知ってもらうため、季節に合わせた観光イベント等を開催しアピールすることとは、町に賑わいを取り戻し活性化を図ることから住民ニーズは高い。また、町内の観光資源や農業資源等の中から地域の活性化の核となる目玉を発掘し、それらを活用することで笠置町の活性化に弾みをつけ、町内外の人材を活用した、持続可能な地域づくりを行うことが必要です。						
プロジェクトの目的及び概要	美しい自然と、史跡・名勝に恵まれた笠置町の魅力を改めて見直し、事業を通じて町の活性化を図ります。						
	総事業費（千円）	12,045	本年度事業費（千円）	4,586	交付金額（千円）	2,287	
プロジェクトを構成する事業の平成26年度事業実績（出来高数値等）							
事業分類	事業名	事業種別	事業概要		主な実績（出来高数値等）		
市町村 実施事業	観光イベント事業（もみじ公園ライトアップ）	交付対象事業	もみじの季節に町の環境を活かし、もみじ公園のライトアップを行う・もみじ公園ライトアップ委託（565千円）		期間中延集客数500人		
	観光イベント事業（駅前装飾委託）	〃	春・夏・秋の季節に駅前を造花で飾りつけ観光客を華やかに迎える・駅前装飾委託（206千円）		JR笠置駅前を中心として、春は桜、夏は青葉、秋には紅葉の飾りつけを実施		
	伝統的行催事補助金	〃	灯ろう流し等伝統行催事に対し補助する・伝統的行催事補助（200千円）		800個の紙製灯ろうを流す		
	各種イベント報償	〃	フォトコンテスト景品並びにもみじまつり、さくらまつりの出演料・フォトコンテスト景品等（46千円）・イベント出演料等（72千円）		21人56作品の応募があり、6人6作品が受賞。もみじまつり：集客者数約1,000人		
	観光パンフレット作成事業	〃	町の観光資源であるハイキングコースマップや史跡など掲載した観光パンフレットを改訂・増刷する。・観光パンフレット作成費（497千円）		観光パンフレット24,000部作成		
	河川敷草刈り委託	関連事業	笠置キャンプ場のある河川敷の草刈りを委託する		笠置大橋左岸の草刈り		
住民 協働 事業	観光イベント事業（夏まつり事業）	交付対象事業	自然と緑あふれる当町の魅力をより多くの方々に知ってもらうため、夏まつり実行委員会が主催するイベントに補助する・夏まつり助成（3,000千円）		花火大会1,509発 集客者数：約7,000人		
	笠置町お宝活用活性化事業	関連事業	地域活性化の核となる目玉を発掘し、町内外の人材を活用した、持続可能な地域づくりを行う		町内外から36人が参加し、全4回のワークショップと、笠置町の魅力や資源を生かすためのワークショップの中から生まれた4つの活動を実施する社会実験を「かさぎーカッサイー」と名付け実施		
	鍋ー1グランプリ事業	〃	来場者の投票により決定する「鍋ー1グランプリ」を開催し、ご当地鍋の中からグランプリを決定する		国民文化祭を機に第5回目の開催を迎え、きじ鍋のまち笠置町を全国にアピールするとともに、ご当地鍋のグランプリを決定するイベントを開催。集客者数約10,000人		
成果 指標	成果指標の目標数値	入込客数 H25：262千人→H28：270千人		成果指標の実績値 （〇年〇月〇日時点）	243千人（平成27年3月31日時点）		
	成果指標の達成状況	△	（左の理由）	8月に河川敷のキャンプ場が大雨等により使用不可となったことが影響し、前年度に比べて入込客数が少なくなったが、最終年度目標達成に向けて努力する			

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成26年度分）

団体名： 笠置町

①	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)		(時期)	
成果指標 ②	成果指標の目標数値	笠置ファンの人数 H25：726人→H28：800人		成果指標の実績値 (○年○月○日時点)	756人（平成27年3月31日時点）
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	成果指標の目標数値は達成できていないが、最終年度に向けて目標数値に近づいているため	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)			(時期)
本年度の事業実績が 成果指標の達成に与えた効果 ※未達成の場合も効果を記載すること	笠置町お宝活用活性化事業では、町の魅力や資源を活かすためのワークショップの中から生まれた4つの活動を実施する社会実験を「かさぎカッサイー」と名付けて実施しました。また、社会実験として、空き家を活用したことにより空き家活用の機運が醸成され、空き家バンク制度への登録物件数の増加が図れたとともに、3件(3名)の移住者が現れ、今後の定住・交流の促進、外部人材の確保が期待できます。 鍋フェスタも5回目を迎え、地域に根付いたイベントとして浸透し約10,000人も観光客等の来場があり、「さくらまつり」及び「夏まつり」とともに、笠置町の魅力を発信する場となっています。 今後も様々な取り組みを通して、笠置町の魅力を発信し笠置町ファンの増加に繋げていきます。 ※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。				
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果		食文化のイベントや町活性化のための社会実験等を通じて新たな笠置ファンの獲得が図れた。		
	府と市町村等との連携に資する成果		地域イベント助成事業の活用が図れた。		
	住民の自治意識を高める成果		各種のイベントや活性化事業等を通じて、住民自らが笠置の魅力を再発見し再確認することができたことにより住民自治の意識が高まった。		
	その他の成果				

(記載要領)

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは―を記載すること。

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成26年度分）

団体名： 笠置町

プロジェクト名	笠置町安心・安全なまちづくり事業	実施期間	H26年度～H28年度	テーマ	安心・安全	新規・継続の区分	新規
地域における現状、課題及び住民ニーズ	近年、全国的に多発している自然災害に対して、積極的に対策を立てる必要があります。当町においては、町面積の約80%を森林が占めている上、山間地という特質上、土砂災害警戒区域内に合わせる形で集落が形成されており、自然災害に見舞われることは町全体の危機に直面することとなります。また、大阪と三重を結び町の東西を横断する国道163号線も平成25年度に冠水し、平成26年度は冠水間近という状況となるなど、住民は常に災害と隣り合わせの生活を送っています。 災害はいつ起こってもおかしくはないものであるため、常日頃から各方面で防災面の強化を図ることや、消防団など災害時に活動する機関への支援も求められています。						
プロジェクトの目的及び概要	地域防災計画の改訂により、現状に即した計画での防災体制の構築やAED等機器の設置により住民並びに観光客等の安心・安全を守るとともに、間伐により表土流失防止を促したり、地域や人を守る機関の支援を図ることで、より一層の災害に強いまちづくりを目指します。						
	総事業費（千円）	25,473	本年度事業費（千円）	12,773	交付金額（千円）	5,346	
プロジェクトを構成する事業の平成26年度事業実績（出来高数値等）							
事業分類	事業名	事業種別	事業概要		主な実績（出来高数値等）		
市町村実施事業	笠置町防災行政無線戸別受信機購入事業	交付対象事業	防災行政無線の戸別受信機購入事業 ・戸別受信機購入費（778千円）		20個の防災行政無線戸別受信機を購入		
	間伐推進事業	"	町内全域の森林における間伐事業実施 ・間伐推進事業補助（1,400千円）		4.3haの民有林の間伐作業を実施		
	自動体外式除細動器（AED）購入事業	"	公共施設（笠置町産業振興会館）にAEDを設置 ・AED購入設置（270千円）		AEDを新たに1台設置するとともに、講習会を実施。（参加者5名）		
住民協働事業	平成26年度笠置町地域防災基本計画改訂事業	"	平成26年度における笠置町地域防災基本計画改訂事業 ・地域防災計画策定委託（7,776千円）		各区の課題等を聞き取り反映させるとともに、最新の災害対策基本法を反映させた。200部作成		
	町づくり事業補助金	"	各地区の安全対策等に係る経費を補助 ・まちづくり事業補助（707千円）		北部区：公民館整備工事 東部区：スポーツ大会、集会所等室内灯LED化 南部区：防災夜間照明器具購入等、里道修繕工事 切山区：防犯灯LED化事業		
	消防団用資機材等購入事業	"	消防用資機材や操法用ポンプの購入事業 ・消防用資機材購入（406千円）・操法用消防ポンプ購入（1,436千円）		操法用ポンプ1台、消防用ホース8本、管鎗8本、スタンドパイプ8本購入		
	消防団防火啓発活動事業	関連事業	消防団の町内全戸訪問による火災予防啓発活動の実施		消防団が町内全世帯を廻り火災予防を呼びかけるチラシを配布		
	交通安全啓発活動	"	街頭啓発等の実施		春・秋交通安全街頭啓発の実施（交通安全対策協議会委員20名参加）、啓発物品の配布、のぼり旗の掲出、ホームページ及び防災行政無線での啓発、保育所及び小学校での事故防止啓発の実施		
	防犯啓発活動	"	青色回転灯搭載車による町内巡回の実施		青色回転等搭載車で町内巡回パトロールをすることで、防犯対策の強化が図られた		
成果指標	成果指標の目標数値	災害による死亡者数 H25：0人→H28：0人		成果指標の実績値 （〇年〇月〇日時点）		0人（平成27年3月31日時点）	
	成果指標の達成状況	○	（左の理由）	成果指標の最終年度ではないが、目標数値を達成しているため。			

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成26年度分）

団体名： 笠置町

①	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)		(時期)	
成果指標②	成果指標の目標数値	町内建物火災件数 H25：0件→H28：0件		成果指標の実績値 (○年○月○日時点)	0件（平成27年3月31日時点）
	成果指標の達成状況	○	(左の理由) 成果指標の最終年度ではないが、目標数値を達成しているため。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)		(時期)	
成果指標③	成果指標の目標数値	防災備蓄品数量（人口に対する充足率） H25:30% → H27:40% (町民×30%×3日分×3Q) (町民×40%×3日分×3Q)		成果指標の実績値 (○年○月○日時点)	充足率35%（平成27年3月31日時点）
	成果指標の達成状況	○	(左の理由) 成果指標の目標数値は達成できていないが、最終年度へ向けて目標数値に近づいているため。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)		(時期)	
成果指標④	成果指標の目標数値	救急救命講習件数or参加者人数 H25:0件、0人→H28:2件、20人		成果指標の実績値 (○年○月○日時点)	1件、5人（平成27年3月31日時点）
	成果指標の達成状況	○	(左の理由) 成果指標の目標数値は達成できていないが、最終年度に向けて目標数値に近づいているため。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)		(時期)	
成果指標⑤	成果指標の目標数値	町づくり事業補助金申請件数 H25:5件→H28:8件		成果指標の実績値 (○年○月○日時点)	4地区 申請6件（平成27年3月31日時点）
	成果指標の達成状況	○	(左の理由) 成果指標の目標数値は達成できていないが、最終年度に向けて目標数値に近づいているため。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)		(時期)	
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果	A E D購入事業や防災行政無線戸別受信機購入事業等を通して緊急時等の体制整備を図ることができたとともに、住民協働事業で実施した笠置町地域防災基本計画改訂事業や消防団防火啓発活動事業並びに交通安全啓発事業を通じて、住民の安全意識向上を図ることができた。				
※未達成の場合も効果を記載すること	※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方策についても記載すること。				
関連事業との連携効果	消防団防火啓発活動事業では、消防団員が町内全世帯を廻り火災予防を呼びかけるチラシを配布することにより火災予防意識の向上を図ることができた。また、交通安全啓発事業では、交通安全対策協議会とともに春と秋の街頭啓発活動やのぼり旗の掲出の実施、ホームページや防災行政無線での啓発等により安心・安全なまちづくり事業に寄与している。				

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成26年度分）

団体名： 笠置町

本プロジェクトに対する自己評価	住民の自治意識を高める成果	住民協働事業で実施した笠置町地域防災基本計画改訂事業やまちづくり事業を通じて住民自治意識の向上が図れた。
	その他の成果	

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは―を記載すること。

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成26年度分）

団体名： 笠置町

プロジェクト名	少子高齢化に優しいまちづくり事業	実施期間	H26年度～H28年度	テーマ	少子・高齢化	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	本町の人口は平成26年3月末には1,563人となり、昭和30年の3,205人の半数以下に減少しています。 また、65歳以上の高齢者の比率も既に40%を超えており、加えて住民の半数以上が65歳以上の高齢者となる、いわゆる「限界集落」が地区に存在しており、今後地域の社会的共同生活の維持そのものが困難になることが懸念されます。 将来推計においては、今後も一層の人口減少が見込まれているところであり、町を活性化させ総合的な定住促進化対策等を講じて、町内からの人口流出を抑制し、町外からの移住を促す必要があります。						
プロジェクトの目的及び概要	美しい自然と、史跡に恵まれた笠置町の魅力を改めて見直し町内外に発信するとともに、交通ネットワークの維持・住宅整備等、子どもから高齢者までが、生き生きと暮らせる施策等を総合的に実施し、人口流出の抑制、町外からの移住を促進します。						
	総事業費（千円）	41,430	本年度事業費（千円）	11,375	交付金額（千円）	2,684	
プロジェクトを構成する事業の平成24年度事業実績（出来高数値等）							
事業分類	事業名	事業種別	事業概要		主な実績（出来高数値等）		
市町村 実施事業	ボランティアコーディネーター設置事業	交付対象事業	住民に対してボランティアに関する情報提供等の実施 ・ボランティアコーディネーター設置補助(2,573千円)		福祉・ボランティアまつりの実施（来場者144人） 相楽東部3町村社協合同での災害ボランティア講座の実施（参加者62人中笠置町19人） ボランティアだよりの発行（700部発行/月）		
	地域福祉推進事業	〃	見守り活動によりお届けする配食サービス、地域住民交流の場としてのふれあいサロン等の実施 ・地域福祉推進事業補助（236千円）		75歳以上のひとり暮らし、高齢者世帯の方へ月2回夕食をボランティアが見守り活動により配食（利用者25人、延411食）。65歳以上の方を対象に、毎月1回地域住民の交流の場としてふれあいサロンを開催（参加者延668人）		
	母子手当支給事業	〃	18歳までの子どもを養育母子世帯に1千円/月支給 ・母子手当（189千円）		18歳までの児童を養育する母子世帯（11世帯）、支給児童17人に対し支給		
	敬老会事業	〃	敬老会事業補助及び傘寿、喜寿、90歳以上の老人に記念品を支給 ・敬老会記念品（230千円） ・地域老人生きがい対策（375千円）		敬老会事業の実施、招待者396人中参加者137人 喜寿：41人、傘寿：30人、米寿：12人、卒寿：6人、珍寿7人、百賀：1人の方に記念品の贈呈		
	緊急通報システム事業	〃	1人暮らし、高齢者世帯で非課税世帯に対し、機器設置工事、電池交換1回/2年を助成		機器貸与は町全額負担、2年に1度の電池交換に係る費用は、非課税世帯のみ町全額負担。平成26年度は3件の電池交換		
	福祉バス運行事業	〃	笠置駅と6集落を結ぶ、児童や高齢者の利用を中心としたバスの運行		運転免許を持たない子どもからお年寄りの利用を中心に平均乗車人員56人/日（平成26年5月）		
	集落支援員設置事業	〃	少子高齢化が進む当町において、集落の維持及び活性化ため具体的方策の発案及び実施に取り組んでくれる集落支援員を配置する。 ・集落支援員賃金（377千円） ・集落支援員活動経費（83千円）		町の情報収集、集落支援員フェイスブックの作成・更新。 「かさぎだより」の発行準備の実施		
	生ごみ処理機等購入補助	〃	家庭から排出される生ごみの減量と再資源化促進を図るため生ごみ処理機及びコンポスト購入費用の一部を補助。 ・生ごみ処理機等購入補助（5千円）		家庭生ごみ自家処理容器設置費補助2件		

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成26年度分）

団体名： 笠置町

	笠置町農村移住促進事業	関連事業	笠置町への移住促進を推進するため、受入組織づくりや空き家改修等の事業に要する経費を支援	笠置町へ移住するための空き家改修事業への助成 2件	
	空き家バンク	"	町内の空き家の有効活用を図り、地域の少子高齢化の軽減及び過疎化の解消を促し、若年層の定住化や町内人口の増加、地域活動の維持、活性化に寄与する。	26年度空き家登録5件	
	駅無人化対策事業	"	無人化となったJR笠置駅にJR職員OBの方を雇用配置し、児童や高齢者をはじめ観光客の対応を行う	乗車人員：24,795人/年	
	子育て支援事業	"	3歳～15歳までの子どもにかかる医療費を自己負担額200円以外分の差額を助成	3歳から15歳までの児童延239人に対し助成	
成果指標①	成果指標の目標数値	笠置町の空き家への移住 H25：0組→H28：5組（3年間）		成果指標の実績値（○年○月○日時点）	平成26年度：2組（平成27年3月31日時点）
	成果指標の達成状況	○	（左の理由）	成果指標の目標数値は達成できていないが、最終年度に向けて目標数値に近づいているため。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）
成果指標②	成果指標の目標数値	ふれあいサロン参加者 H25：延べ673人→H28：延べ700人		成果指標の実績値（○年○月○日時点）	平成26年度：延べ668人参加（平成27年3月31日時点）
	成果指標の達成状況	△	（左の理由）	毎月1回地域の集会所に集まって実施しているが、気象条件等により参加者の増減があり、今年度は前年度より参加者が少なくなった。最終年度に向けて、参加対象者への呼びかけ等実施し目標達成に向け努力する。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果 ※未達成の場合も効果を記載すること	町内を循環する福祉バス運行事業等の交通ネットワークの維持に向けた取り組みは、交通分野の課題解決にとどまらず、まちづくり、観光、さらには、健康、福祉、教育、環境等の、様々な分野で大きな効果をもたらすものであり、各種の児童から高齢者までを対象とした支援策等を通じて、高齢者等に優しいまちづくりを進めるとともに、JR笠置駅の無人化対策事業により観光笠置としてのイメージダウンの回避にも繋がった ※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方策についても記載すること。				
本プロジェクトに	関連事業との連携効果	笠置町農村移住促進事業では、移住する側への助成（空き家改修等）のみならず移住される側への助成（受入組織づくり）を支援することで、双方が安心して移住促進事業を実施することができると考えられる。平成25年度は0件であった契約が平成26年度においては2組の移住者があり、問い合わせ件数も増えているので、引き続き契約に繋げていきたい			
	府と市町村等との連携に資する成果	府と町の制度を併せることにより、医療助成体制や移住促進体制の強化が図られている			

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成26年度分）

団体名： 笠置町

対する自己評価	住民の自治意識を高める成果	福祉医療制度の充実により、住民の自治意識が高まる
	その他の成果	

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは―を記載すること。